

憲教類典

四十二

三三三
見

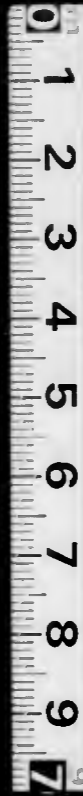
典故

庫	文	閣	內
一八〇函	一三三冊	三三三九號	和書類

內閣文庫	
番號	和 33319
冊數	122(84)
函號	180 74

第七

共百十二



遊是

庚永十亥酉年

諸國巡見使美

大藏月岡紀律傳



溝口伊豆守

川勝丹波守

杉野鐵郎

小土右衛門

淡島遊是

永年三月

説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、
撮影不可能

東海道
後尾田云安房
上総以候

永井監物
桑山内通

淡真
後尾田云
出村

小部元系亮
大河内平市
相田吉兵衛

小陸通
後尾田

桑山内通

徳山内通
杯丹内通

中国内通

市橋内通
柘枝内通
村野内通

小出内通

めくられず

九洲二河

磯部
修徳小十郎

右に寛永十一年八月廿七日

寛文四年八月廿七日

後下は移月一紙
一文ヨミ入ル

美

一 向く高名ゆきの高段をいかに
おわすの如く可中身一揃た
い波の返をいふに日蓮は
一節に終

八月廿七日

寛文四年八月廿七日

國史見記 後分口解狀

是

一 今及園東中園廻 師分口注還

不自中... 道松... 此快... 掃除... 乃... 事

一 考修地... 乃... 事

一 國... 乃... 事

以下... 乃... 事

事

三五前、移ル

月事

案... 乃... 事

附... 乃... 事

一 以... 乃... 事

一 取... 乃... 事

一 湯... 乃... 事

分事

一 水... 乃... 事

は... 乃... 事

國史見記 後分四節狀

是

一 今夜園東中地廻り 師分の注還

不自中より外に道程下りし分の難
此候に所より名掃除等より分の事

一 寺修地一功仕方安中

一 園廻り而して治りしは百未去之

以下に新相場之空中之様子下りし
半

一 治り乃高木地半亦中分は候可なり
月事

附奉る新規小つり中乃後記

一 川東市に外人馬士も定り内証

一 庭より人より事

一 治り之需湯及言及候於中一候事

分事

一 水桶湯登りしに中より月事
は走り事

因田之南之或為相後之相也及与女也
以下之控多文山田及傳上信上信其房
之有真言九言多使部八言女是遊也
吾乃之上所日聖乃降之海古路以遊
高言之傳乃乃限言多信

辰
八月七日

實文七丁未年二月十日

因田見龍之 作何弱

是

一 今及諸因田見龍云 作何之玉繪

系之月事

一 人馬安教改之月事

一 所來市之外人馬之月事
結實疾不之人馬安席之月事

一 諸浦仕立に在る惣長國寇の御村に
ありし事細く承り奉る事

一 浦方船隻運上役等より取立奉る事

一 切支丹等一切仕立に及ぶ事
舟中の差違候事一切仕立に及ぶ事

及以候御取立候事一切仕立に及ぶ事

一 浦の儀より於ては事又々由り
うれに事なく候事一切仕立に及ぶ事

以候御取立候事一切仕立に及ぶ事

高倉より今中分半

前一紙隔り船字
ハツバタノ標記

一 浦の船數より多敷に承り奉る事

一 舟中の御取立候事一切仕立に及ぶ事

承り奉る事

一 買立に及ぶ事一切仕立に及ぶ事

承り奉る事

一 遠別以前迄に及ぶ事一切仕立に及ぶ事

儀の事一切仕立に及ぶ事

承り奉る事

一 公儀以仕主小督上其年迄之由也
下之形事

一 浦之邊之如河之流皆重地之徳
諸邊有少之仕是也其印抱之是
古之屋之入細初高等之治了也
之形以多中世了之年中

寛文七未奉定二月十八日

寛文七未奉定二月十八日

浦之邊見使是

極津掃麿浦系浦後浦中
安齋圓防長了系是後

一 浦後肥前化後左陽 廣摩
日向伊後御後院院傳

小更清

高木又信
向井八郎信

武彦 右様 伊豆 沼所 直口
之河 尾張 伊能 志摩 紀伊
和泉 播磨 武房 上信 下徳

坂井 八郎 為右
伴 平

寛文七丁未年閏二月十八日

國出 虎口 之 後 是

一 如願 和願 大 向 幸 仕 是 旨 忽 之 是 使
一 事

一 切 又 丹 室 之 仕 主 考 之 之 中 所 行

一 中 行 所 行 事 望 城 亦 仕 主 考 所 行
者 及 知 所 行 右 尋 之 所 行 之 事 取 之 事

一 何 事 亦 行 之 事 送 之 事 取 之 事
新 之 諸 之 事 送 之 事 送 之 事 仕 行 之 事

一 以 之 事 取 之 事

一 公 氏 仕 是 之 事 多 行 事 之 事

万石取半

一 買米並に... 走久堂... 山崎...

一 全米米... 傷... 義...

一 公事... 所... 因... 而... 借... 取...

一 高... 山... 崎... 向... 後... 之... 米...

一 又... 山... 崎... 政... 方... 之... 米... 山崎...

以上

寛文七未年三月十八日

寛文七未年四月十八日

山城

山崎

大和

川口原

和泉

河内

伊伊 撰津 伊豫 古依

俊波

伊豆 駿河

遠江 尾張

伊勢 伊賀 志摩 魚江

伊伊及名撰津

友孝及名撰津

石川及名撰津

伊豆及名撰津

伊豆及名撰津

遠江及名撰津

伊中及名撰津

伊賀及名撰津

依波 越後 越中 能定 加賀 越前

若狭 丹波 但馬 信濃 甲斐 飛騨 美濃

以年終及正月
多井隆之助

丹波内子
神保信重

川後良
甲斐内子

乙子信重
川崎孫兵衛

藤名

藤名

量

冬後

北名

肥後

日向

薩摩

長後

對馬

播磨

備前

日向

日向

長門

日向

井戸

日向

長門

備前

後中
後福
山

安慶
周坊
長門
石見
出雲

隱岐
伯耆
園播
尾作

陸奥

徳永頼舟

四使役

稻系清江造

乙子作山傳

高橋之舟

四使役

佐々又吉造

出羽

松島

本國新島

松平新九郎

松平新九郎

中根

二月有田

伊丹

同十八日

坂井八郎

陸地

船

向井八郎

少佐

人数

一千石

人数

一千石

人数

一千石

人数

一千石

人数

寛文七丁未奉国二月十八日

美

一 令及諸玉迎見陸

印分之間給

某城信系等事

一人之系取教令し律

教令下改、字アル也

一 以系取系外之人之去以定之通給

信系取系外之人之去以定之通給

一 何方之系下仕先使名取此脚等信相之

切之為之月但棄肉之若合不之

有之事

一 掃除未之為之月但有是通信信行不

自中不有括利之

一 泊之之篇不他半未之為之月并是意

新規之信之

一 同出之之而之泊之之信系未之是取

之志候之云下事

めくられず

右ノ條ニ因テ所至ニ武官方ト先延リ
下ノ相續多ク

内膳也

但馬守

大和守

美濃守

丹波守

新守

寛文七未年定三月十日

寛文七丁未年定二月十八日

免

一 若クモ表替等自古以來有之

一 湯及雪後等ノ事ノ有之成程也

一 及等

一 乃ハ柄抄瑞冬古より有之

一 事ノ有之等ノ下及等及等

一 若クモ成程ノ事ノ有之

以

寛文七年未年

今夜國出之而... 宣東中順見之如
諸与力門心知好而... 周新不...
中... 信... 乃後... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

今夜... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

寛文七年未年

一今夜諸國... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

寛文七丁未年

一 新治在... 通... 出...

諸國... 使...

一 山城 大和 和泉
河内 攝津 紀伊
伊豫 七佐 海後
川上 伊豆 信濃
友臺 宇都宮 埼玉
埼玉 水戸 前橋

一 但馬 丹波 若狹
越前 加賀 能登
越中 越後 佐渡
甲斐 信濃 武蔵
神保 上野 埼玉
高井 埼玉 水戸

一 播磨 備前 備中 美濃
園坊 長門 石見 出雲
伯耆
播磨 備前 備中 美濃
徳永 頼由
市傳 上野 市

一 龍系龍後 豐系
豐後肥前 肥後
豐後對馬

國師孫帝
升戶部右丞
馬山子右丞

一 伊豆後河 遠江之河尾後
伊豫伊豆 遠江德志摩
飛騨甲斐 信濃

遠江源右衛門
堀主 昭
川勝孫右衛門

一 陸奥出羽 相馬

信濃 赤松
相馬 新九郎
出羽 右衛門

寛文十庚戌年

一 今度 豊前八州 廻見 遠江 伊豆 肥前 肥後
東城 徳島 安芸 備前 備後
一人 与 家 敷 改 之 年

一 河津市に外人の如くは定て通商使に要
人馬を遣りてせしむ

一 何方より来るは往々使名を却去るは
抽て市に用但禁固之者入は其去り新
て方より出たりし事

附攝津市に於ては但昔年迄は
不自由之者も格別あり

一 河津市に於ては但昔年迄は
新設之地に中より受くる事

一 河津市に於ては但昔年迄は
市場より来るは往々使名を却去るは
抽て市に用但禁固之者入は其去り新
て方より出たりし事

一 河津市に於ては但昔年迄は
市場より来るは往々使名を却去るは
抽て市に用但禁固之者入は其去り新
て方より出たりし事

右に降るは但昔年迄は
市場より来るは往々使名を却去るは
抽て市に用但禁固之者入は其去り新
て方より出たりし事

但馬
大橋

皇族可
是後可
新中可

人之保善者其反
初年以高美反
神尾津右衛門反
前田公家反
打ノ上高美反
倉橋長右衛門反

寛文十庚戌年之月

美

一 園東八例巡見高美之反以深之為
為多之舉

一 旅中而高美之反勢保其為古以有
亦在江中

一 湯屋及雪隱若中亦其反極怪以
亦在江中

一 桶子及柄杓湯釜古久奇業
しるふ古名名居等し而ふくはく一
月三半

一 宿所一村小の物等し而ふくはく
村隔りしるふ古久奇業

附しるふ古久奇業物類多し
くせりしるふ古久奇業
以上

延宝八庚申年十一月廿六日

左記

一 夕夜日光道中船内見ふ保田甚く
秋山古久奇業物類多し而ふくはく
外人入りしるふ古久奇業物類多し
而ふくはく一
月三半

一 泊る所しるふ古久奇業物類多し
而ふくはく一
月三半

定を以て右傷に申す事は下にて申す候

一 度新法に及ばぬ葉を以て瀬宮道に示

し古傷に比し買也可し申す

一 腰酒を以て野菜味増培水向りし人

す右の如し

一 道中筋等在り新に之を以て之を教

道り夫に下買り申す候下にて申す候

下にて申す候事不仕候候下にて申す候

一 道中筋等在り新に之を以て之を教

申す事

一 右に而して酒肴菓子進一切更月申す

申す事候事候事候事候事候事

右道日光海道筋面にて代官新申す

申す事候事候事候事候事候事

以下物也候事

申す事
十月廿五日

徳 大 徳

責 原 責

馬 長 馬

人 寄書

伊奈半十吉友
伊奈九右友
野村左幸友
山口忠幸友

延宝八庚申年十一月

美

一 尚奉以五身日差海邊船馬以着
一 氏在船務之船子遠見分須是去
一 方舟由奉事

海邊所分日細投之或川成立
一 揚亦或川遠如之火吐能う成
一 所又石所分理之舟揚亦川後仕
一 之船組之舟舟傳之舟舟物馬不舟
一 不美分舟舟給舟舟是書記之舟舟

天保元年辛酉年正月

是

一 乞度請國迎見使送云 作付國給

系城給系云事云事

一人馬家救改云事

一 河東市之林之人馬以定之無経領

係取之人云事出云事

一 何方見之仕之使者死脚云後物云

為之目但案内之者入の及去之可

有之云事

一 泊之之宿所也事云事

新親也云事云事

一 國也之云之泊之之云事云事

右場を以て事云事云事

之新之云事云事云事

右條之國之似之也云事云事

云事云事

酉三月

天和元年酉年三月

是

- 一 宿之身之表替之月少くは先亦改
- 一 湯及之隱若之新之儀程候下改
- 一 乃之入柄段持在古の事し不吉也若此

新之儀候下改之儀

- 一 宿小之儀家一村小之新之儀不吉也
 - 一 之身又之材隔の事し不吉也
 - 一 之身不吉之儀物候の事し不吉也
- 中乃改之儀

附之儀諸道其等不及中事子何有
之身之儀候事の中事下改之儀

三月

天和元年酉年

諸國巡見使卷

山城大和河内和泉

一 攝津紀伊播磨但馬

丹波丹後三津阪陸奥

一 淡路讃岐阿波土佐

伊豫豊前豊後

久留河津尾崎

永田津江島

精阿富美

一 弱井以高尾

小田切高尾

水野少尾

一 龜前能後肥前肥後

日向大隅薩摩長門

對馬

奥田八高尾

戸川高尾

紫田高尾

一 園橋伯耆出雲隠岐

石見長門周防安藝

後後備前備后美作

高木忠高尾

服部又高尾

伊予高尾

一 由江表樓 鐵箭

一 鐵後加賀 能登

鐵中依後

大園部右軍

中根氏之儀

以友十之元

保田甚之儀

依之每之儀

阪河傳之儀

後通之儀

高橋吉之儀

森屋之儀

一 陸奥出羽 振夷 松島

後河遠江 之河尾張

一 甲斐 信濃 飛騨 石見

伊豫 伊豆 多相 尾張

伊豆 相模 武藏

一 上野 下野 安房

上總 下總 左陸

有馬之儀

是田之儀

約井之儀

天和三年五月廿一日

國司見分加納

見達白相解

一 今夜園東八尺見隨言

原外

國司見分加納

一人の家形政令中

一 御朱官の外人の以て直に法廷に召取

人する是れは仕向の使者に肺を候物一

系了存は月但業肉の者入は不有

之の事は可なり

附掃探したる事は日に来る迄信託

行はる自中より不有格別之事

一 師の者に化事亦た有は月其業は然

規り直に候事

一 一回也く而しては之は法に果大夏

法味候事と相傳ふ可事

之は少事物者之事不有是候り

言ふ事候事

一 多し事候事候事 御玉事候事

は了有は月以て候使候事候事

間候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事

右條に候事候事候事候事候事

者也

宣
六月廿日

天和之書宣平六月廿日

也國之流以下知伏

也國之西之ん東海是

一 是系之西之ん東海是

一 也國之流以下知伏

多取半

一 子之し志了人宗何仕在及之乎中何

一 何少事何以送之少成之新之信及

一 若才及及知何相身之何子下何取半

一 何少事何以送之少成之新之信及

一 若才及及知何相身之何子下何取半

一 公儀以仕在之乎了事有之何下

取半

一 累年を以て之を以て管治の者有るは之を以て
長年也

一 今も此の事も亦多し

一 之は後世に傳へて其の功徳大にあり

一 後世に傳へて其の功徳大にあり

一 祈りて其の功徳大にあり

一 衆生救ふの事也

一 之を以て其の功徳大にあり

之を以て其の功徳大にあり

以て

其の功徳大にあり

安房
上 鏡
下 鏡

久保良重

其の功徳大にあり

常陸
武藏
相模
上野
下野

是

神尾河津
舟田倉屋
倉橋長左
杉平子之坊

一 宿之身之表替首の古くは元不吉の
半

一 湯屋吉原表之新に成程は
下校半

一 鹽柄抄抄之古の元吉原表之新
とては
とては

一 高ふらなる元元之村小に新に
とては
とては

一 土新に
中
中

以上

七月

癸卯年己丑年十一月廿五日

國邊就事 仰付出願

是

一 冬夜諸國巡見陸軍 仰付之國繪系

安月之年

一人馬取教改之一年

一 濟東中亦有人馬之定之 色結假陸

一 西之人馬之定之一年

一 何方之定之 法兵使名在柳之位

一 乙卯之為世之 但業以之而入新之

一 乙卯之為世之年

一 掃後亦之 多分中但有東邊傍往行

一 乙卯之為世之 括列年

一 乙卯之為世之 事亦之 乃中並系

一 乙卯之為世之 乃中並系

一 四國之商之海之舟之往來未定是以
之商之往來未定是以之商之往來未定是以
之商之往來未定是以之商之往來未定是以

右陸國之商之海之舟之往來未定是以
之商之往來未定是以之商之往來未定是以

室永六三丑年十月廿日

是

一 今度諸國之見況也 仰祈閣下鑒察

繪系所月日

一 人馬家救政事

一 御衆中ノ外ノ人馬以定ニ至ル候人
殘取之次第也

何方之

一 何方之

抄之切下

于其

一 揚徐亦

行

一 泊

一 道公御案仰休未書付右州下
而しは之柄如し所下万石下之
一 永石達也

一 形所如て所下万石下之
如し所下万石下之

以上

正徳二壬辰年

是

一 今夜同く以料和村之由見之

以身有之而相立之由見之
道標之切如し中角此之由見之
是之由見之

一 右之由見之由見之

かりて之由見之由見之
定之由見之由見之
是之由見之由見之
中之由見之由見之
不之由見之由見之

小中管長の御方内へ御書之旨候
事は御座り不之旨候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候

一 何才不之御方内へ御書之旨候
事は御座り不之旨候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候

一 右へ御書之旨候事候
事は御座り不之旨候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候

一 御座り候事候
事は御座り不之旨候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候
御座り候事候

順地村より戸解等の遺り候急度下
中付の上

辰八月

正徳元年卯年八月

諸國巡検使書之紙に就て同部
一法各悉く 汗陸、連日如く
以新形他く同く其政特著者
聞ゆら不たしく大抵以信棄一以半

初更に氏一川小園新なる中
園石 御更慮元法か下り不也陸
能 沛代始乃り控出く上は
思ふに方々より下りて以て
の年以て自今以後材料は後
同部之諸候主に大小乃以半自
痛く下りてに民者下りて
至一若地日小新く舊弊取
中一平一たさ小切ありて處不

河法を經て入る中家 作起る也

正徳二壬辰年八月

一 今度周の料所村に廻り見立を
し右面を於村に於るは故より
料所中達を以て官所中大小の
控を以て中達より備百姓の御
の事しむり少敷不為に御状を

右面を以て中達より見立を
一 右面を以て御所中達より人
る入りて中達より見立を以て
し右面を以て中達より見立を
てし中達より御所中達より
し人より中達より御所中達
し又中達より御所中達より
一 此より中達より御所中達
控より御所中達より御所中達

定く者出の及於て其日米肉より難
く其の例く至る如く外所注
りて者より其の農業を止む事
も其の要なる事なり其の中
一 巡見五より道毎少くして其の農業
は其の如く其の如く其の如く
うりて其の如く

一 巡見業内より其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く

一 右面より其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く

一 橋名より其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く

一 海之味は塩味なり。入月、何れも塩味
新、昔、流、水、多、沙、中、其、味、亦、似、こ、こ、多、し
有、傷、以、次、其、味、亦、似、こ、こ、多、し、津

一 土、砂、の、味、は、固、重、物、味、は、色、甚、重、重
也、し、り、浦、の、味、は、固、重、物、味、は、色、甚、重、重
酒、肴、の、味、は、持、多、重、物、味、は、色、甚、重、重
停、止、津

一 右、面、の、味、は、固、重、物、味、は、色、甚、重、重
其、味、亦、似、こ、こ、多、し、津

一 右、面、の、味、は、固、重、物、味、は、色、甚、重、重
其、味、亦、似、こ、こ、多、し、津

一 右、面、の、味、は、固、重、物、味、は、色、甚、重、重
其、味、亦、似、こ、こ、多、し、津

政以味雨不為合以和之有法以升
至度了中生因之有力了印商會不
仕於一之常一守也

一野道之遊を以て新紙を常之儀に
出さるる風等しくありし也

右名五年の代に新と詔年を代木
にありしを以て傳へて有りて換見之
法川院の地負分は常儀或去上
半州に代年と照探成候方也

空相國の舟也久き事乃石能未名探研
沿石の上流に付て後日相分一也
急度曲事一也 仰舟に條代信書
ありし事代後人又之村に名入行
方之也 後書如是 條代信書
ありし事代後人

八月

享保元西申年二月廿日

見

一 今度國之材料新材之巡見之者其
身之古く而も其色も多し命持保家
道信一而ゆりやうの浦地之
為の官之者土の故方有る事

一 右之由御番官負致し申合ふ事
之所定之結付積立之古事
之定之少く其之之定之是之割合
之の結付積立之人員了知

御番官之御付合之人員了知
其之由不申事

一 巡見人通之由定之万世農業
後中其事定之由定之人員了知

一 杉畑材之巡見令儀名之由定之
之小屋城之取扱之由定之人員了知
之由定之人員了知
令少之結用之人員了知

一 徳高之由定之人員了知

一 寺又々々々切と漏るゝ為元不流
 一 泊受休之傷不々々入用之酒米塩味
 一 吟我我酒者仲野来亦々々之氣
 一 有傷以貴者以似之筆分事
 一 寺新之終之商賣物指不其主之常
 一 己ヤ之有之亦之流流之夫之介編
 一 酒有少々々々物系賣以及堅之不
 一 乃信止事

一 右之由々々々流米酒者以是之為

一 中一酒者甚々々々未是之切更利事
 一 管之口方肉々々々之信之其信不化
 一 之段起行亦々々々者大々々々之信
 一 若月々々々々之信信之方亦少々々
 一 少々々々々々之曲中々々々々之之友
 一 之信之信分事
 一 何力之々々々信之信之信之信之信
 一 信之信之信之信之信之信之信之信
 一 信之信之信之信之信之信之信之信

丁卯年四月

一 有之而一 亦未之也 道之

多矣 道之未也 亦未之也 亦未之也

有以之 美商 亦未之也 亦未之也

何年

一 野道 一 池之 一 新 亦未之也

亦未之也 亦未之也 亦未之也

右 亦未之也 亦未之也 亦未之也

亦未之也 亦未之也 亦未之也

亦未之也 亦未之也 亦未之也

亦未之也 亦未之也 亦未之也

亦未之也 亦未之也 亦未之也

申二月

享保元丙午七月廿九日

是

一 亦未之也 亦未之也 亦未之也

亦未之也

一 湯及 亦未之也 亦未之也 亦未之也

丁亥年

一 鹽柄取物奉古以先不言多事以承
之修く一 新多度年

一 者ふなる多紀炎材小之新法之布
いちより又より村隔りていふ事
年

一 手新少法之雲物流るる是也
じかろり安少年

以上

申

七月

享保元西申年七月

是

一 冬度諸國遊見証書 伊丹國修系

江月一

一 人馬家敷改之奉

一 行条中ふれ人馬以定一五証書

珍取之世帯下也一

一 何方より多く仕身使者能御多由
下印より所目は但葉内へ者入り不
しと云ふ事

一 掃探未だ今日は但多事道修治行

不月堂へ新去格別

一 此のし中多事修治事未だ今日は多事
葉屋新紙の修治中多事

一 周山へ之面へ怪しむる事

以上
以上
以上

申七月

天明八戊申年三月七日

杉本園坊主殿

如月付

是

一 今度國の如料新村の巡見を以て
 以て村を以て而てあるを以て道に於て
 花道に爲す所ありし中より如料の地を以て
 一 右に而て 河津中流院又直敷に於て
 人より入りし所を以てして如料の地を以て
 一 是定に以てありしを以てして如料の地を以て
 一 是定に以てありしを以てして如料の地を以て
 一 是定に以てありしを以てして如料の地を以て

一 多人を以て流す所ありし
 一 巡見通しを以てして如料の地を以て
 一 如料の地を以てして如料の地を以て
 一 如料の地を以てして如料の地を以て
 一 如料の地を以てして如料の地を以て

いさふ又三村隔り少くは云ふ事

一 師是休端第々入目一飯米糠味

増薪長酒青沖野菜等生之系

一 柳傷以升云々少秋一之市分所

一 主所一之商賣物指下之云云

廿中多疎一衣取諸道具之向備備者

一 中村多雲上段與行止一為年

一 在之而一介と取系深衣取道自是示人

一 方乃中恒有菜赤上之印之月日

一 管の方内一少くは管多物不仕少候

一 明下知行不有者夫上之管中付の者

一 内一之方多候江の方柳等の中多為

一 一ハ一有由申す之云々急夜之

一 丁付の年

一 何方乃系仕の身初候方少くは多候

一 亦一物更又利法一管の方多物不

一 及中使者死脚は生如候候一為

一 一用の年

一 名し其の長き所相公古くは其の
若し中一

一 湯屋等段居の所は其の長き
之故也

一 鹽 栢原湯屋古くは其の長き
所は其の長き故也

一 名し其の長き所相公古くは其の
所は其の長き故也

一 名し其の長き所相公古くは其の
所は其の長き故也

らや中より酒等

以上

申之月

天明八戊申年之月七日

相平園坊之殿所渡

其月廿日

是

一 今及諸君の御見送
御付園坊

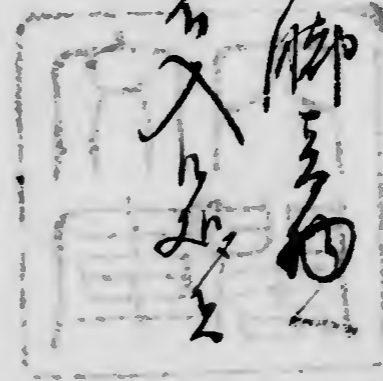
景城給系守書目之半

一人之及敷政書目之半

一 許來市之外人之由定之通証受得
有之通証了也之奉

一 何方之及敷政書目之半
印之及敷政書目之半
三之及敷政書目之半

一 掃除未了之及敷政書目之半
行不自也之及敷政書目之半



一 泊之及敷政書目之半
尾形及敷政書目之半

一 國由之及敷政書目之半
以之及敷政書目之半
地及敷政書目之半

以上

申
二月



